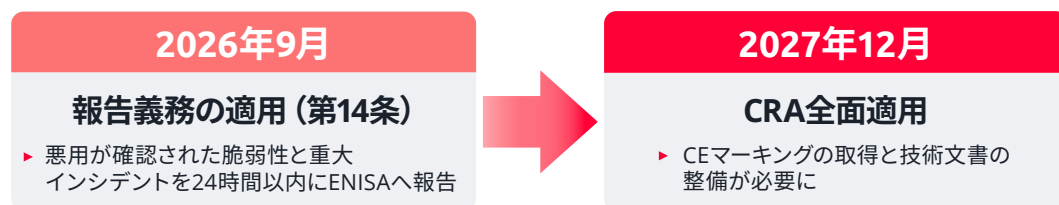


CRA Studio

CRA対応プラットフォーム

EUサイバーレジリエンス法（CRA）は段階的に適用され、2026年9月から報告義務が始まります。VicOneはxZETAとCRA Studioの2つのソリューションにより、報告義務への対応から2027年12月の全面適用に向けた準備までCRA対応に必要な業務を一貫して支援します。



継続モニタリング 脅威への先回り対応

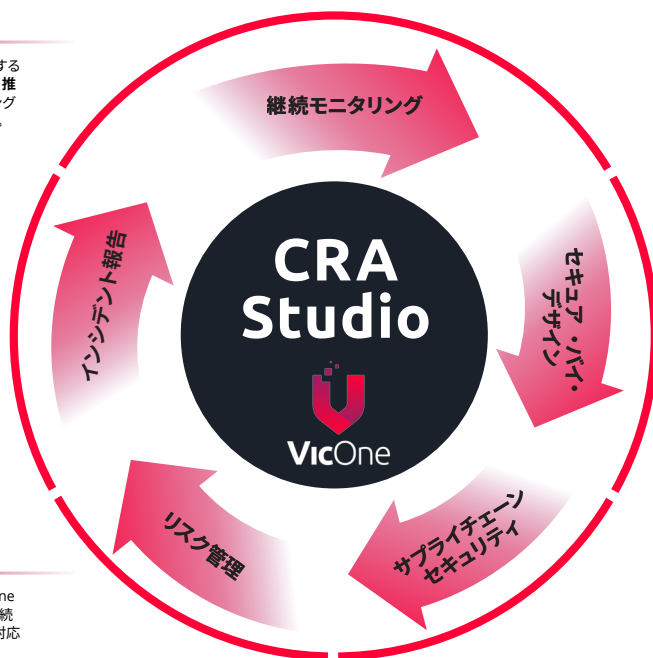
製品ライフサイクル全体にわたり、新たに発生する脆弱性や攻撃経路、進行中の脅威を可視化し、推奨される緩和策とあわせて継続的にモニタリングすることで脅威に先回りした対応を実現します。

インシデント報告 高度な脅威の可視化

ゼロデイ脆弱性や未公開・既知の脆弱性に加え、CWE、APT、ランサムウェアの脅威まで高精度に可視化し、インシデントの報告と対応を効率化。NVDを189%上回る脆弱性情報のカバレッジを提供します。

リスク管理 脆弱性の優先度付け

VicOne独自の脆弱性影響度評価「VIVIR (VicOne Vulnerability Impact Rating)」が脆弱性を継続的にスキャン・評価し、重要リスク上位10%に対応を集中できます。



セキュア・バイ・デザイン 脅威モデリング

サイバーセキュリティリスクを自動的に特定・評価・優先付けし、全工程にわたるトレーサビリティを実現。コンプライアンス対応と長期的なリスク管理を効率化します。

サプライチェーンセキュリティ SBOM管理

サードパーティ製・オープンソースのコンポーネントを可視化し、サプライチェーンのリスクを低減。脆弱性を迅速に特定し、依存関係を正確に把握できます。

xZETA

CRA報告義務対応の脆弱性管理ツール

SBOMを自動生成し、出荷後を含む製品の脆弱性を継続的に把握します。悪用が確認された脆弱性との突合により、報告に必要な情報の整理を支援します。

CRA Studio

CRAコンプライアンス管理プラットフォーム

製品情報や既存文書をもとに脅威モデリングを行い、CRA対応に必要なコンプライアンス文書の作成と証跡の整備を支援します。

脆弱性管理からコンプライアンス文書化まで、CRA対応に必要な情報をつなげます

xZETA + CRA StudioでつなぐCRA対応

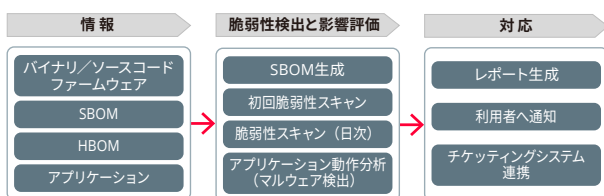
xZETA

ファームウェアやソースコード、既存のSBOMをもとにSBOMを自動生成・管理し、脆弱性を継続的にスキャンします

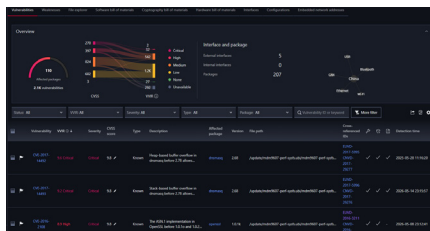
主な機能

- ファームウェア/ソースコードからのSBOM自動生成
- 既存SBOMの取り込みと管理
- 継続的な脆弱性スキャン（日次）
- NVDを189%上回る脅威インテリジェンス
- ゼロデイおよび未公開脆弱性の可視化
- VVIR*による対応優先度の判定

複数ソースに基づく脆弱性管理



検出脆弱性の一覧



CRA 第14条への対応

悪用が確認された脆弱性や重大インシデントについて、影響範囲の確認と報告情報の整理を支援します

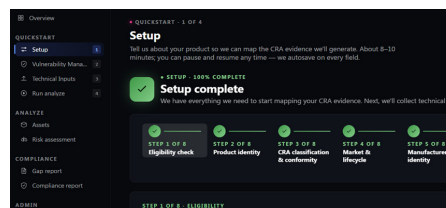
CRA Studio

製品情報や既存ドキュメントをもとに脅威モデリングとGap分析を行い、CRA対応に必要な文書を自動生成します

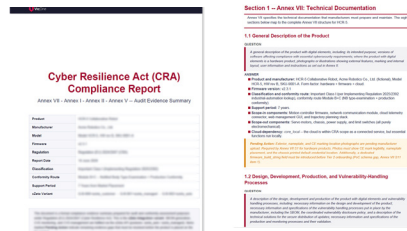
主な機能

- ステップ入力による製品情報登録
- 既存ドキュメントの取り込みと自動分析
- 脅威モデリングによるリスク整理
- CRAコンプライアンス文書の自動生成
- Gap分析による不足情報の可視化
- CRA全面適用に向けた文書化支援

手順に沿った情報入力



CRAコンプライアンスレポート



CEマーキング取得に向けて

CRA全面適用に向けて必要となる文書や証拠を整備し、不足情報は入力情報や既存文書をもとにGap分析で可視化します

*VVIR : VicOne Vulnerability Impact Rating

**xZETAとCRA Studioは製品デモで実際にお試しいただけます
CRA対応の進め方とあわせて、まずはご相談ください**

CRA Studio_2026.06
Copyright © 2026 VicOne Corp.
All Rights Reserved.

詳しくはVicOneウェブサイトをご覧ください
vicone.com/jp

